

Fact Sheet

嘉悦学園創立者・嘉悦孝と建学の精神 ——「怒るな働け」

嘉悦学園創立者・嘉悦孝は、慶応3(1867)年熊本に生まれ、成立学舎に学んだ。明治維新の先覚者横井小楠先生の高弟であった父氏房からその実学思想を教え込まれた。孝は当時、一般の女子教育がややもすれば実社会とかけはなれた、いわゆる深窓令嬢の遊芸的教育、あるいは西欧文明の単なる模倣に終わりがちな傾向を憂い、明治36(1903)年10月女子の実業教育の必要性に応え我国最古の歴史をもつ女子商業教育校「私立女子商業学校」を創立したのである。



嘉悦学園創立者：嘉悦 孝

建学の精神——「怒るな働け」

孝の父、氏房の師である横井小楠が、慶応2年(1866年)に兄時明の二人の遺子、左平太(当時22歳)と大平(17歳)兄弟のアメリカ留学に際して贈った有名な送別の語「送左大二姪洋行」がある。前半4行は二人の甥が着眼すべき政治、社会の観方を示している。混迷する現在の政治、社会を見るにつけ、今一度全ての日本人が拳拳服膺すべきことと思料する。また、後半5行で日常生活に於いて常に心掛けるべきことを示しているが、これはほともすると他人に厳しく己に甘い現代の日本人にとって平素の心構えとして心すべきことであろう。そしてまた、この5行は校訓「怒るな働け」の精神の基となっている。

明堯舜孔子之道 (堯舜孔子の道を明らかにし、)
 尽西洋器械之術 (西洋器械の術を盡くす。)
 何止富國何止強兵 (何ぞ富國に止まらん、何ぞ強兵に止まらん、)
 布大義四海而已 (大義を四海に布かんのみ。)
 有逆於心勿尤人 (心に逆らうこと有るも人を尤むること勿れ、)
 尤人損徳 (人を尤むれば徳を損ず。)
 有所欲爲勿正心 (為さんと欲する所有るも心に正にする勿れ、)
 正心破事 (心を正にすれば事を破ぶる。)
 君子之道在脩身 (君子の道は身を脩むるに有り。)

小楠塾は士民の身分を越えた塾であった。師弟、年齢を越えての自由な討論は、詰め込みの講義ではない、生徒の個性を伸ばす議論討論であった。小楠の政治学の目的は民を養うにあった。これからの日本は、民の生活を堯と舜二代の高徳ある帝王の心を学んだ上で、西洋文化を取り入れ、国を富ましたなら、それを世界の人のためにも広めなければならないと考えた。そのために小楠は藩を越え、国を越えて世界に目を向けていた。越前藩の藩政改革には渾身の努力を傾け、見事に成果をあげて、新しい世界の方向を示した。公議主義をたてまえとし、武器や爆弾をもって殺戮や戦争を行うためではなく、大義、すなわち普遍の理に貫かれた豊かにして平和な世界の建設こそ、小楠とその弟子たちによる熊本実学派の目指すところであった。(横井小楠記念館パンフレットより)
 (裏面につづく)

独立行政法人 国立女性教育会館

Fact Sheet

孝が、父氏房を通じて受けたこの横井小楠とその弟子たちによる熊本実学派の思想を教育の場に具現することも、建学の精神の大きな柱の一つとなったのである。孝は、著書『怒るな働け』（大正4年（1915）発刊）の序でこう述べている。

「女子に学問が無くても世が渡れた時代は別問題ですが、現代のやうに諸方面の教育が発達して参りますと、単り女子ばかりが無学で通す訳には固より時勢が許しませぬ、それかと申して余り新進の学問にばかりカブレて、修養の足りない内面の充実しない女子が沢山出来るのも、国家の慶事ではありません、何れにしても女子教育が盛んになればなる程、世間から其の教育に対する注文が多くなり、又一般の女子自身も自分が踏み行く道に不安の念を抱く傾きがあるやうです、元来私は日本の女子が其の本分を盡す上に於て、何処までも堅実なる知識を基礎として、最も能く働く実用向きなので、而かも質実にして穩健でなければならぬと信じて居ります、また現在の国家社会の状態から見ましても、斯る女子を要望して居ると思ひます。」（後略）そして、同著の第八章で女子商業学校創立の動機を次のように説明している。

「実質を備へた女子の養成 私しが女子商業学校を創立した動機は、吾が国の女子は歌道とか、書道とか、料理とか、茶の湯とか、生花、礼節などには随分巧妙い御方が沢山に世間に御見えになるやうですが、経済思想に富んだ実用に適した御方は誠に寥寥として暁の星の如く少ない様に思はれます。御遠慮なく申しますれば、斯かる思想は「トント」無い様にさへ思はれます。依つて之れを救済して見度いと思つて起こしましたのが抑々私しが学校を創立したる最初の動機でございました。

大きい事を申す様ですが、国家を経綸するとか、国政を執るとか、一つの会社銀行を設立するとかに於きまして、其当路の有司、其処の頭取始め役員などには、其職務を完うする上に於いて、事務を整頓して行く上に於いて、先づ以て経済思想を要します。ですから、如何に人格の高い、態度の立派の方々がありましても、経済思想の乏しい人、また絶えて無い御人には、国政に參與すること、銀行会社の事務員などに御成りになることは出来ません。国家や民間の有志の方々が、年々莫大の政費、沢山の経費を予算に計上して、帝大又は之れに準じたる学校を設立して行きまして、経済思想を養成しますのは、国家を維持する上に於いて、会社などを継続維持する上に於いて、必要があるからでございます。

孝の希求したものは、この校訓を基本精神とした婦人の経済的自立能力の養成および社会的地位の向上であった。すなわち家庭婦人は一家の経営担当者であり、豊かな家庭を築くには高度な経済知識は欠かせないものであるとの信念から、豊かな教養と高い経済知識を備えて実社会に役立つ女性の指導者を養成し、社会の発展に貢献しようとした。

これが嘉悦学園創立の意図となっている。

（嘉悦学園理事長・嘉悦克）

（写真所蔵：学校法人嘉悦学園）

独立行政法人 国立女性教育会館

Fact Sheet

嘉悦孝の生涯にわたる教育活動について

嘉悦学園創立者嘉悦孝は、実学教育を掲げ、多くの有能な女性を世に送り出し、教育の実を挙げた。

孝の教育理念の源をただせば孔子に辿り着く。このことは、孝が半生に於いて究^つした儒学にあり、端緒は幕末の英傑実学党の横井小楠の理念にあること。ここには、堯・舜・孔子の道を明らかにすることや、人をとがめてはならないなど、人間への道、世界平和への道が記されており、これが孝に極めて大きな影響を与えたものと言える。斯くて孝は、明治36(1903)年37歳で夙志の私立女子商業学校を開校したのである。

孝は、若くして教育に目覚め、女学校在学中既に女子教育の枢要を論文で説いた。開校後は、愛・人道・平和・学問・健康の五項に要約される教育五大綱領を掲げ、それを集約した校訓「怒るな働け」のもと、実学に精神教育を併せ、報本反始・商業道徳・男女の特質を逸しない男女平等の在り方など、女子の品性の向上と人格教育に尽くし、多くの堅実な家庭婦人はもとより、日本で初の女性公認会計士など実務に堪能な俊秀才女の卒業生10,200余名を輩出した。

今や孝の教えは過去のものではない。重要な教育法典として、実学を学ぶ者も神学を学ぶ者も普く学ばねばならない人間の在り方、家庭生活、社会生活に大切な要を教えている。

日本で教育改革が叫ばれてからもう久しいが、戦後失われた人格教育の総てが、この孝の教育理念の中にある。

孝はまた、学校教育の傍ら、婦人社会奉仕団体に加わり、下田歌子(現・実践女子大学創立者)、吉岡彌生(現・東京女子医科大学創立者)、鳩山春子(現・共立女子学園創立者)等と共に赤手万難を排し奉仕活動に参加し社会に貢献した。

孝の女子教育の究極は、人格そして経済に明るい堅実な家庭婦人の育成にあるが、それが日本の教育の要となる濫觴^{らんしょう}として、そこに女子教育の真の意義を見いだしている。更に、孝のその目指した女子教育は、飽くまで日本の伝統の美と言える日本女性としての品位と人格ある女性であり、それは何時の時代にも世界に誇れるものと孝は確信を持っている。

(嘉悦学園 元研究員・白尾公一)

(裏面につづく)

女性の実業教育のはじまり
〜チャレンジした女性たち〜

Fact Sheet

嘉悦孝 年譜

年代	年齢	
1867 (慶応3) 年	1歳	1月26日 誕生 生家は熊本市坪井町
1874 (明治7) 年	8歳	日新堂に就学(後の本山小学校)
1877 (明治10) 年	11歳	日新堂退学
1878 (明治11) 年	12歳	父の緑川製糸場の女工になる(16歳まで)
1886 (明治19) 年	20歳	上京
1887 (明治20) 年	21歳	成立学舎女子部本科2年編入
1889 (明治22) 年	23歳	同校卒業 同校助教の傍ら高等科就学
1891 (明治24) 年	25歳	同高等科卒業 同校教師となる
1892 (明治25) 年	26歳	春 熊本鶴城学館に奉職
1896 (明治29) 年	30歳	同校退職上京
1897 (明治30) 年	31歳	大日本婦人教育会付属女紅学校に奉職
1900 (明治33) 年	34歳	同校解散 4月成女学校幹事・舎監奉職
1901 (明治34) 年	35歳	成女学校夏期講習会講師
1903 (明治36) 年	37歳	私立女子商業学校創立開校 神田仮校舎にて
1907 (明治40) 年	41歳	市ヶ谷駅前に新本校舎竣工移転
1908 (明治41) 年	42歳	父・氏房没
1915 (大正4) 年	49歳	理念を代表する著書「怒るな働け」出版 11月 勲六等瑞宝章受章
1917 (大正6) 年	51歳	プロシアより赤十字第二章第三章受章
1926 (昭和元) 年	60歳	ドイツより赤十字第二章名誉章受章
1927 (昭和2) 年	61歳	母・久没
1928 (昭和3) 年	62歳	勲五等瑞宝章受章
1929 (昭和4) 年	63歳	日本女子高等商業学校創立開校
1930 (昭和5) 年	64歳	富士見高等女学校長を兼務
1932 (昭和7) 年	66歳	富士見町に校舎移転
1940 (昭和15) 年	74歳	教壇50年祝賀会
1945 (昭和20) 年	79歳	空襲で住居焼失
1949 (昭和24) 年	83歳	2月5日 没 仮住まいの校舎が終焉の地となる 勲四等瑞宝章受章
1950 (昭和25) 年		熊本県近代文化功労者顕彰受章

女性の実業教育のはじまり
〜チャレンジした女性たち〜